

(仮称) 加茂市認知症の方の尊厳を保ちながら幸せに
暮らしていける地域の実現を目指す条例 (案)

根拠集

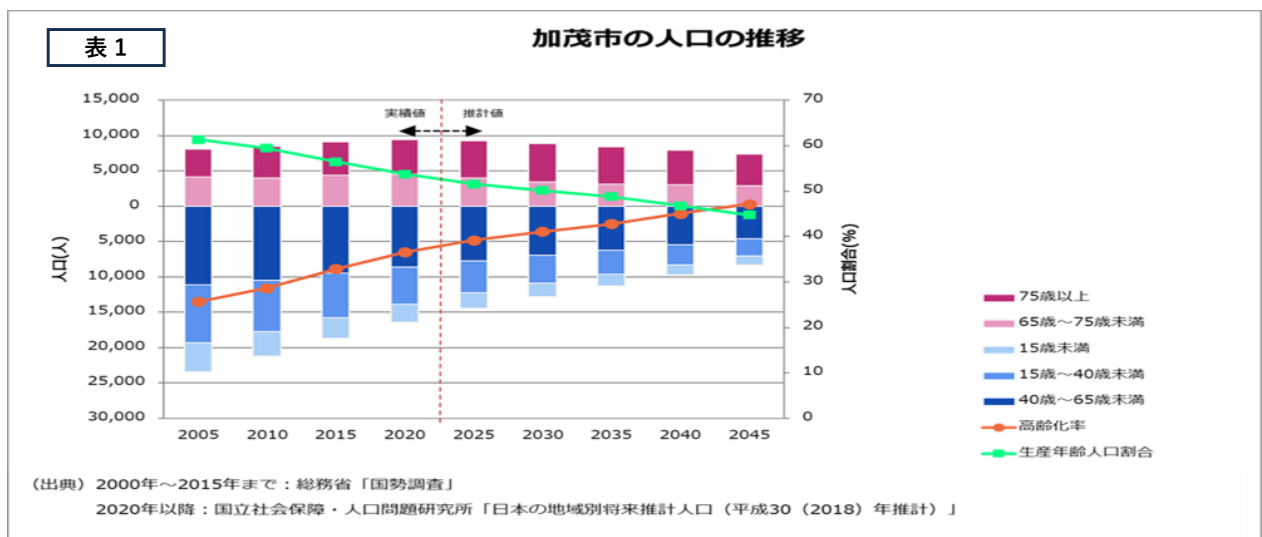
前文・第1条 目的

加茂市は、表1のとおり、総人口が減少する中で高齢化率は全国平均を大きく上回り、年々超高齢社会が進行していきます。2045年までには、生産人口の割合を、高齢化率が上回る状況です。

表2のとおり、平成26年に行われた厚労科学研究（九州大学二宮教授）を参考に加茂市の認知症の有病者数予測を試算すると、認知症の有病者数は当面、高齢者人口が増えることに伴い増えていきますが、高齢者人口が減少に転じる2040年頃には、認知症の有病者数自体も徐々に減少していくと推計します。しかし、支える側となる15歳から64歳の生産人口も減少するため、担い手を増やすことが重要です。ヒアリング等でも、「歳をとっても社会参加の場が欲しい。」などの話が聴かれているほか、第1回条例制定検討委員会でも「これからは、担い手の確保と予防のため、高齢者もどんどん社会に出ていく仕組みづくりが重要である。」との意見が出されました。

加茂市では2021年におよそ四半世紀ぶりに総合計画が策定されました。高齢福祉分野において、市民一人ひとりのニーズに答えるには、介護サービス、通いの場、そして活躍できる場も不足しています。全国平均を上回る高齢化率の高い加茂市において認知症に対する予防と備えは重要な課題です。

認知症は誰もがなりうる身近な病気です。認知症は徐々に進行するため、急に何もわからなくなるわけではありません。認知症を正しく理解し、認知症の方も、そうでない方も尊厳を保ちながら活力ある「笑顔あふれるまち 加茂」「住み慣れた地域で、ともに支えあい、だれもが安心して健やかに暮らせるまち」を目指し条例を制定するに至りました。



○国立社会保障・人口問題研究所が公表した「日本の地域別将来推計人口」によると、加茂市の人口は2025年には23,747人、高齢化率39.2%（全国平均30.0%）、2035年には19,662人、高齢化率42.8%（全国平均32.8%）、2045年には15,703人、高齢化率47.2%（全国平均36.8%）と推計されています。

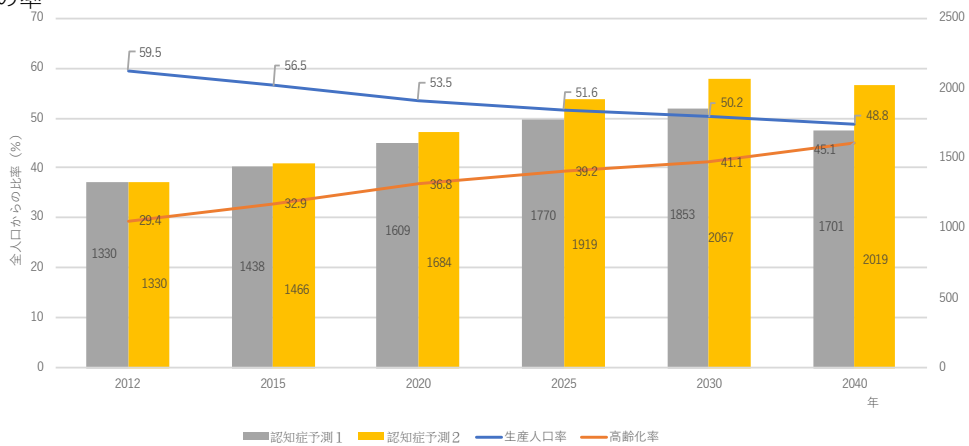
表2 加茂市生産人口高齢化人口、認知症の方の予測推移

資料は「日本における認知症高齢者人口の将来推計に関する研究 (H26厚労科学研究九州大学二宮教授速報値)」を参考に推計した。

認知症予測1：各年齢の認知症有病率が一定の場合の率

認知症予測2：各年齢の認知症有病率が上昇する場合の率

高齢化率と生産人口率の推移と認知症の方の推移



第2条 定義

第2号～5号については、図1、2のとおり。

図1

第4号：事業者

第3号：市民

第5号：関係機関

≪詳細は図2≫

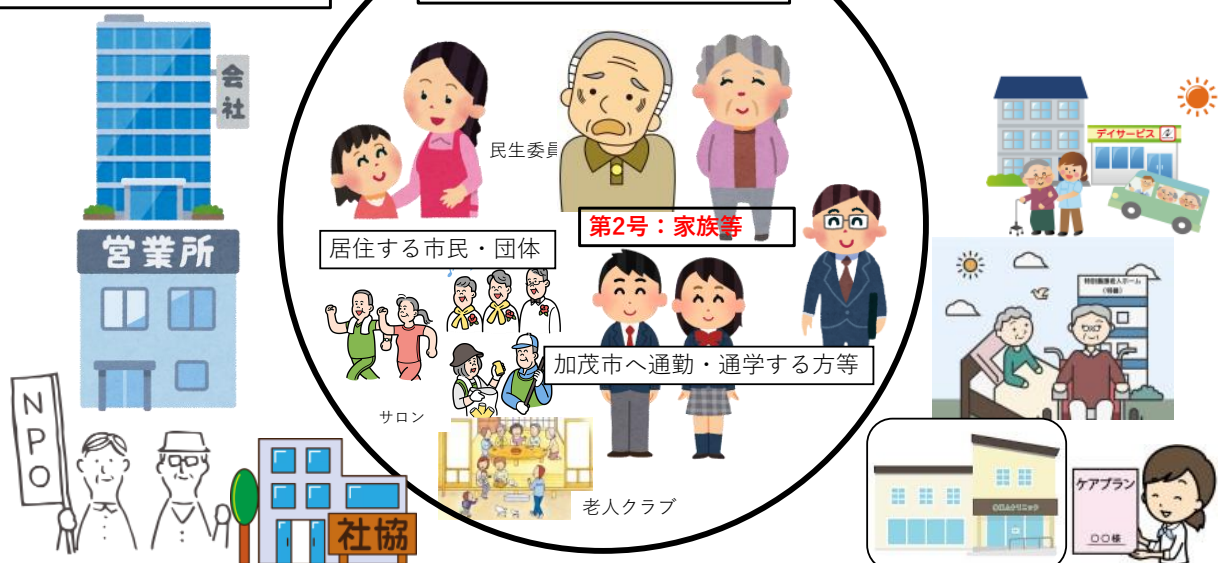
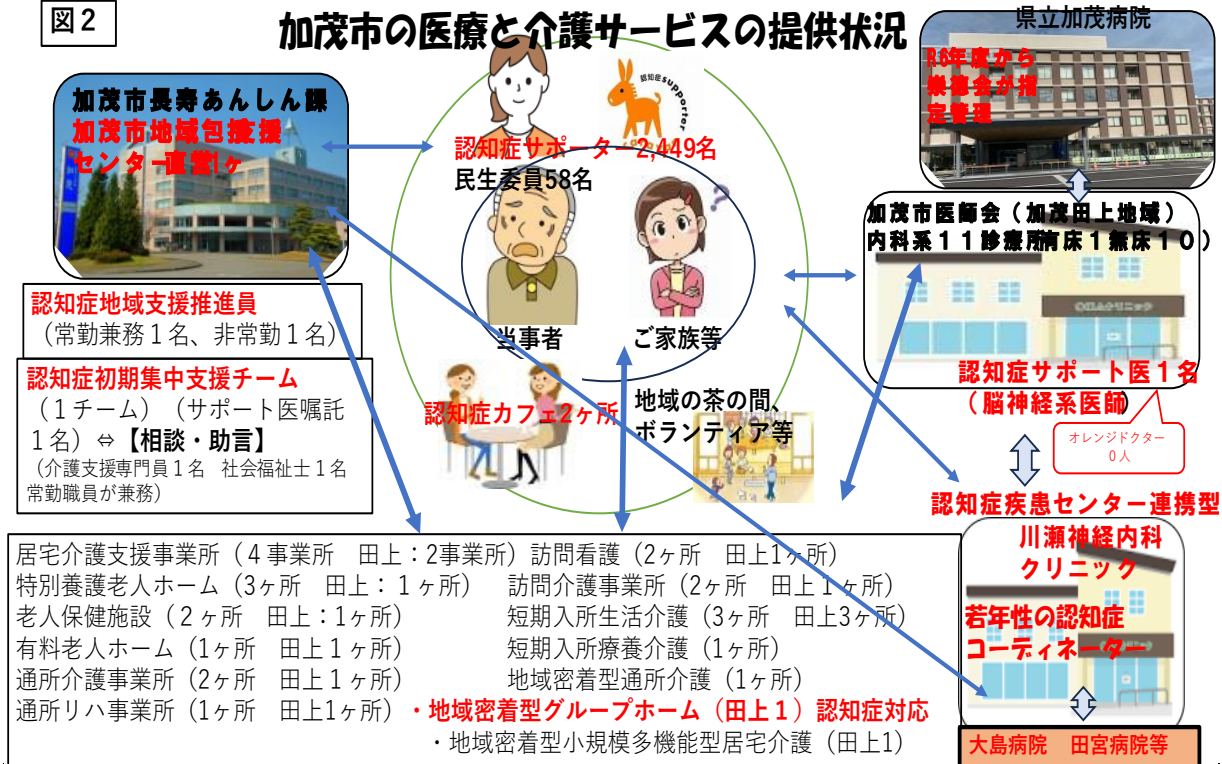


図 2

加茂市の医療と介護サービスの提供状況



第6号、認知症の予防と備えについて

条例制定にあたり、「予防」という言葉を使用するかについては、多くの意見があり、検討を重ねました。

ヒアリング等で「認知症は予防できないというが、良いと言われることは積極的に地域でやっていく。」「自分でもどうしてこんなになったか分からない。認知症にならないように色々やっていたけど。」「何でもできる母がこんなになるとは思わなかった。よく聞いてはいたけど、自分も含め、誰もがなるんだと思う。」などの声があり、予防に資するとされる活動は必要ながら、認知症の方の思いを受けとめ、予防を強調しすぎず、認知症に対して備えを定義していくこととしていました。

しかし、条例制定検討委員会で構成された作業部会において様々な意見交換がなされ、またそこでの意見を踏まえ、医学的立場の条例制定検討委員の方々から意見を頂きました。「予防」「備え」は類義語なうえ、その区別を考えた時にも、一次予防から三次予防としてであったり、認知症になるとされる原因疾患によってであったり「予防」「備え」を並列または含みで考えるかは委員、事務局の間でも様々な意見が出されました。

その中で、認知症に対する世間の動向や認知症の方の心情を思えば「備え」が良いのかもしれないが、「認知症予防」という言葉は、メディアや書籍等でも浸透しており、市民にとって「備え」ではわかりにくい。「予防」とする方が市民にとってもはっきり示すことができる。「予防」という言葉を慎重に扱いながらも、積極的に進行を遅らせるための活動の推進のため、加茂市の認知症条例において、第2条で「予防」「備え」を示し、このように定義して施策推進いくこととしました。

第3条 基本理念

加茂市の総合計画の実現に向けた基本理念について

(1) たとえ認知症が進行しても全ての記憶や感性が失われるわけではないこと。認知症の方からのヒアリング等で、「何もわからないわけではない。わかっていることもある。」「一人では外出できませんが、お手伝いしてもらえれば外に出て元気になります。」との話が聴かれました。認知症の方及びご家族等（以下「認知症の方等」とする）が意見を発する機会を持ち、その思いを受けとめ、適切なサポートを行うことで、認知症を特別視せず、全ての市民が尊厳を保ちつつ、笑顔で希望する暮らしを続けることが可能になると考えます。

(2) 認知症の発症や進行の仕組みについては、現時点でも解明が不十分であり、根本的な治療薬や予防法は確立されていません。認知症を完全に防ぐことは難しく、年齢を重ねれば誰もが認知症になる可能性は高まります。そこで、全ての市民が認知症を「自分事」として認識し、市が実施する予防と備えに資する施策や取り組みに、参加、協力することが重要であると考えます。

(3) とともに支えあうまちの実現には、関係機関等からのヒアリングでも、情報共有の重要性と連携強化の重要性が多数聴かれており、相互な連携が重要であると考えます。

第4条 市の責務

市の責務として重要なことは、認知症の方の意見を聴くことです。ワークショップやヒアリング等で、認知症の方等は、認知症という病気を背負いながらも自らの意見を発信してくれることと、その思いを尊重することが大切です。また、認知症の方は、「本当に認知症なのか・・・。」と迷ったりする方もいる反面、あまり深刻な病識を持っていない様子もあるなど、認知症を特別視していない方が多いこともわかりました。そのような中で、「まわりにあわせるしかない。」といった話も聴かれ、現状に甘んじ、受け入れて過ごしている状況があります。そのような話を聴き、関係機関が連携し、いかに良い環境に認知症の方等を導くことができ、重要であるといった話に達しました。

条例制定にあたり、認知症の方等を含む市民、そして事業者、関係機関の意見を幅広く聴き、そこから得られる貴重な情報を施策・評価に取り入れる重要性を定めました。

第5条 市民の役割

第1項、認知症に対する正しい知識を得て、予防と備えを行う必要性について

ヒアリング等より、「身近にあったパンフレットを見た際にチェックしたら全て当てはまり、認知症と感じた。」「認知症を早期に発見し、早期からの関わり大切さと認知症の正しい理解の啓発の大切さを痛感した。」との話が聴かれた通り、認知症に対する予防と備えには、認知症についての正しい知識を持つことは重要であると考えます。

第2項、交流や見守り等市民相互の支え合い活動に取り組むことについて

ヒアリング等より、「仲間がいるのは心強い。話ができるのは良い。」「普通に接してくれるのがとてもうれしい。」「社会参加の場が欲しい。」などの話が聴かれるように、認知症の方も地域の一員として役割をもって過ごしたいと思っています。また、「これからは高齢者も社会を支えていく、高齢者もどんどん社会に出ていく仕組みづくり」が重要な加茂市において全ての市民が相互に支えあいながら、過ごせるための取り組みが重要であると考えます。

第3項、認知症の予防と備えに努め、認知症施策や取り組みに協力することについて

市民一人ひとりが、認知症を自分事ととらえ、認知症予防に資する活動を行うとともに、認知症への備えのため、その知識を得ることや実際に活動を行うための認知症施策や取り組みに参加、協力することが重要であると考えます。

第6条 事業者の役割

第1項、認知症に対する教育の機会を設ける必要性について

企業に行ったアンケート調査において、若年性認知症については、回答いただいた多くの企業が、「知っている。」あるいは「聞いたことがある。」との回答でした。しかし、認知症の相談窓口は多くの企業が「わからない」との結果が得られました。事業者が、認知症について正しく理解することが、認知症の方等が利用しやすいサービス提供につながるほか、利用者の方や従業員の変化に早期に気づくことにもつながります。そのためにも、認知症に対する正しい知識を持つことが重要であると考えます。

第2項、就労継続の配慮について

企業アンケートにおいて、「障害者雇用では精神障害者や知的障害者の方へは、支援者による助言者が必要で、適切な配慮がないと難しい。」との意見や、実際、若年性認知症の雇用継続には、配置換え等の配慮が必要であることがわかりました。

また、介護離職も現在大きな社会問題となっています。ヒアリング等でも「これ以上進むと仕事を辞めないと介護できなくなるか不安。きっと入所は嫌がるし。」「両立には、介護者の職場の理解が必要。」と言った家族等からの声が聴かれるように、仕事と介護の

両立への不安は大きな問題です。

事業者において就労継続ができるよう、可能な範囲で制度や環境の配慮がなされることが重要であると考えます。

第3項、認知症施策や取り組みへの協力について

ヒアリング等において事業者が、認知症のパンフレットを置いたり、窓口を伝えるなどの取り組みを行ってくださっていることがわかりました。また、「要望頂ければできることもある。」との意見も聴かれ、市の取り組みに協力を得る可能性が大きいことが示されました。認知症の方等の生活全般に大きく影響のある事業者からの認知症施策や取り組みに協力いただくことは重要であると考えます。

第7条 関係機関の役割

第1項、専門性の向上と良質なサービス提供について

ヒアリング等で職員より、「職員のスキルをあげるための研修の場がもう少しあるといい。」「職員は、研修等一人ひとりが認知症の理解を深める。」「その方にとって必要なサポートがまだあるのではないかという認識で業務に入っています。」などの意見が聴かれています。専門性の向上と、認知症の方等にとって適切なサービス提供を行うには、技能の向上が重要であると考えます。

第2項では、連携による切れ目ない支援について

ヒアリング等で関係機関より、認知症の方等の支援に必要なこととして「医療として医師と、介護施設、本人や介護者との間に入り連携に努める。」「多職種連携のネットワークの充実が必要。」との意見が聴かれており、認知症の方等の支援には、切れ目のない支援が重要と考えられます。

第3項、認知症施策や取り組みへの協力について

ヒアリング等でも関係機関から、施策に反映するような貴重な意見を多数頂くことができました。各関係機関の専門職等は、市の認知症施策や取り組みに協力いただくことは重要であると考えます。

第8条 認知症の予防と備え

第1項、認知症の予防と備えにおける市の役割について

認知症予防として、なることを遅らせ、なっても進行を緩やかにするような活動として加茂市では、オレンジカフェの開催や健康ポイント事業などにより、社会参加や運動等の活動を推進しています。ヒアリング等でも、「集まれる場が近くに欲しい」「サービスを利用して進行が遅くなって欲しい。」など、予防に資する活動の場を望む声は多く聞かれており、今後さらに社会参加や運動等の活動ができる場づくりに取り組みます。

また、自分自身や周りの方が認知症になったときのため備えておくことで、余裕をもって生活環境を整えることができ、選択肢の幅も広がると考えられることから、市は積極的に、意思決定支援や相談できる窓口、利用できるサービス、認知症に対する正しい知識といったそれぞれの周知・普及啓発活動を研修会や講演会、イベントの開催、そして広報等での周知活動に取り組みます。

第2項、早期発見と適切な支援に向けた体制づくりにおける市の役割について

表3に示したとおり2022年において加茂市の要介護認定者の66.2%、実数として1,173人が認知症自立度Ⅱa以上の方です。久山町疫学調査（久山町研究）で行われた手順で診断された認知症の方の推計値で試算すると、2020年では1,609名から1,684名となり、約500名の差が生じており、未把握の認知症高齢者が約500名程度潜在していると推計されます。市ではそのような現状を受けとめ、ケアパスの内容充実と利用促進、認知症初期集中支援チームによる支援体制の強化に努めます。また、第1回条例制定検討委員会でも確認されたように、共生のまちを目指すにあたり、まだまだ潜在的な方がいらっしゃると推測される中、地域組織を中心とする市民や事業者と連携し、地域において早期に相談支援につなげられる仕組みづくりにも取り組みます。

表3

認知症の方の将来推計と把握状況

日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究（H26厚労科学研究 九州大学二宮教授による）

年	2012年	2015年	2020年	2025年	2030年	2040年	2050年	2060年
各年齢の認知症有病率が一定の場合の将来推計（人/率）	15.0% 1,330人	15.7% 1,438人	17.2% 1,609人	19.0% 1,770人	20.8% 1,853人	21.4% 1,701人	21.8%	25.3%
各年齢の認知症有病率が上昇する場合の将来推計（人/率）		16.0% 1,466人	18.0% 1,684人	20.6% 1,919人	23.2% 2,067人	25.4% 2,019人	27.8%	34.3%
加茂市の要介護認定を受けている方で認知症高齢者の日常生活自立度Ⅱa以上の方の人数	1,137人	1,189人	1,141人	2023年 1,151人	各年10月1日現在			

第9条 知識の普及及び人材育成

第1項、認知症の方等の思いの発信支援における市の役割について

以前は、認知症の方は「何もわからなくなった人」という偏見を持たれる方が多くいました。認知症の方等が勇気をもって発信してくださることで認知症への理解が深まりつつあります。今回の条例制定検討委員会では、認知症の方等が委員として参加して下さったほか、ヒアリング等においても沢山の意見を発信していただきました。この思いを大切に、「笑顔あふれるまち 加茂」の実現のため、そして認知症の方も地域の一員として尊厳と役割をもって過ごすことができるよう、引き続き認知症の方等の発信支援に取り組みます。

第2項、認知症サポーターの養成やボランティア活動の推進における市の役割について

認知症に関する正しい知識を持ちできる範囲で手助けする認知症サポーターを増やすことは、共生のまちづくりには欠かせません。認知症サポーター数が、他市町村と比較しても少ない加茂市において令和4年度から認知症サポーターを増やすことに重点を置き取り組みを進めてきました。学生のうちより認知症への正しい理解をもつことは、第1回条例制定検討委員会でも重要であると認識されました。市では、市内の小中学生が一度は認知症サポーター養成講座を受講できるよう体制整備に取り組みます。また、子供への関りを通して、その保護者世代にも認知症への理解が浸透するよう取り組んでいきます。

なお今年度より、加茂市社会福祉協議会がかもボランティアポイント事業として、暮らしの困りごとを地域で助け合う仕組みとしてボランティア活動を推進しています。担い手を増やすこと、そして社会参加の機会を増やすため、市としても社会福祉協議会と連携し、活動支援を進めていきます。

第3項、関係機関においての質の向上を図るための市の役割について

ヒアリング等においても関係機関より「研修等一人ひとりが認知症の理解を深める。」

「職員のスキルをあげるための研修の場がもう少しあると良いのではないか。」「研修をとおして他の事業所の方とも連携していけるのではないか」などの意見が聴かれました。市としても、現在行っている多職種研修や医療介護連携推進協議会の研修会等を活用し、さらに専門職の専門知識や技能の向上に取り組みます。

第10条 地域づくり及び社会参加の推進

第1項、認知症の方等の社会参加推進に関する市の役割について

ヒアリング等で、「たまに忘れることもあるが地域も良く接してくれるので困っていることはない。」「周囲の協力が必要だと思っており、父が認知症であることを地域の人に伝えている。皆さんに声をかけてもらえる。」などの声が聴かれ、認知症の方等が安心して住み慣れた地域で、支えあい安心して暮らせるまちの実現には、地域の理解や助け合いが重要です。また、「近くにオレンジカフェのような所があると良い。」「気軽に買い物に行ける手段があるといい。」などの声が多数聴かれており、公共交通の充実、交通手段の確保や居場所づくりなどのため、市は、認知症地域支援推進員や生活支援コーディネーターを中心に基盤整備を行っていきます。

第2項、見守りネットワーク等の体制整備と強化に関する市の役割について

市は、外出時の安全が確保できる環境づくりのため、認知症サポーターを増やすとともに、区長や民生委員を中心に地域の防災組織等とも連携しながら、見守り体制の強化に取り組みます。また、警察より発信される、所在不明者SOSネットワークの情報については、さらにスムーズな周知方法の検討についても取り組みを行います。

第3項、就労継続や社会保障制度利用支援等の市の役割について

「働くのは楽しいです。」「活動（仕事）できる場所が地域にあると良い。」という認知症の方等の話があります。一方で、企業アンケート等では、「障害者雇用では、適切な配慮がないと難しい。」との話があり、新たな雇用や、雇用継続においても難しい現状があります。若年性認知症の方にとって経済的な問題は大きく影響します。若年性認知症支援コーディネーターや、ハローワーク、障害者就労支援事業所等と連携を密にしながら、使える制度はできるだけ利用するための体制づくりと、就労が難しくなっても社会参加できる居場所づくりにも取り組みます。

また、家族等から「これ以上認知症が進むと、仕事を辞めないと介護できなくなるのか不安。」「精神的、経済的に不安。」などの声が聴かれるように、現在介護のために仕事を辞めざるをえないといった介護離職は社会的にも大きな課題となっています。介護離職防止のため、介護サービスの充実などにも取り組む必要があります。

企業アンケートにおいて若年性認知症は約8割の企業が理解しているが、認知症の相談窓口については約7割の企業が「わからない。」との回答でした。事業者には認知症に対する理解をもって頂くことは、利用者となる市民はもちろん、従業員本人や従業員の家族等の変化に気づくことにもつながります。認知症は、早期受診、早期治療を開始することで、進行を緩やかにすることができるため、事業者にも認知症サポーター養成講座の開催をして頂けるように、加茂商工会議所の協力も得ながら取り組んでいきます。

第11条 権利擁護

第1項、認知症の方等の権利擁護推進のための連携に関する市の役割について

認知症の方等の権利擁護にあたっては、問題が複雑化・複合化しており、単独の支援機関では対応できないものも増えてきています。市では、新潟県弁護士会と連携協定を締結し、相談体制を確立しているほか、必要に応じて、すみやかに地域ケア会議を行い困難ケースにも対応できる体制構築に努めています。今後もさらに、複雑化、複合化するケースに対して、各機関と迅速に連携し対応するよう取り組みます。

第2項、認知症の方の意思決定に関する市の役割について

認知症になったときの備えのため、元気なうちに自分の思いや希望を書き留めておくことは必要であり、その必要性について市民や事業者への研修が必要です。ヒアリング等でも、「一人の人間として尊重して欲しい。」「干渉しすぎないでほしい。」などの意見が聴かれています。認知症になっても、記憶や感性の全てが失われるわけではありません。認知症の方の残存能力の活用、自己決定の尊重の理念のもと、支援体制を整えるよう取り組みます。

第3項、成年後見制度利用促進に関する市の役割について

ヒアリング等において施設職員より、「身寄りのない方にスムーズに対応する体制があると良い。」との話が聴かれています。自己判断能力が低下した方の財産保護や、身寄りのない方への支援体制の整備が急がれます。必要に応じて、成年後見市長申立を含め、成年後見制度が利用できるよう司法をはじめ関係機関と連携し取り組む必要があります。

第4項、虐待防止に関する市の役割について

現在、加茂市においても高齢者虐待の相談件数が増えており、その対象には認知症の方が多い状況です。ヒアリング等でも「自分がこうして欲しいと言っても素直に聞いてもらえず手をあげてしまいそうになる。」「プライドが高く対応に困ることがある。」「大変な時はショートステイ等で母をみてほしいです。」と言った話が聴かれるように、養護者に対する支援も重要であると考え、必要な体制構築に取り組みます。

第12条 認知症施策検討委員会

第13条 財政上の措置

認知症施策検討委員会の設置と財政上の措置について

認知症施策を横断的に実施するため、市長が「認知症施策検討委員会」を設置し、認知症施策推進基本計画の策定と評価を行っていくこととします。

そこでは、条例制定のため行ったワークショップやヒアリング、アンケートで得られた意見、そして常に認知症の方等の意見を丁寧に聞きながら審議を行っていきます。

また、それに必要となる財政上の措置を講じます。

認知症条例ヒアリング

1：ご本人（ケアマネージャー等により聞き取り）

	趣味や好きなこと、楽しみにしていること、続けたいことを、やってみたいこと	あったらよいと思うこと、〇〇に期待すること	その他（みんなに伝えたいこと、わかって欲しいことなど）
Aさん	・今はしていないが、以前は野球やゴルフが好きだった。でも今は頭がコレだから（と、ジェスチャーで手を開く動作）できない。小さい頃行ったところへ行ったり、昔に戻りたい。挑戦したいことはあるけど（他者から）シャットアウトをくってしまう。	・どこに何があるかわからないから、わからない。	・体は元気だけど頭がね…。迷惑をかけずに長生きしたい。
Bさん	・（本人様に直接質問をしても上手く答えることができませんでした。ふだん、好きで行っていることは、猫の世話や散歩なので「散歩ですか」「猫の世話も好きですよね」などと聞けば「それも好きです」等と返答は頂けました。）	・あんまりよくわからないです。	・（答えられませんでした。）
Cさん	・お花を育てたり、野菜を作ったりする事好きで楽しみだ。これからも畑仕事をしていきたい。	・この歳になって特に期待することは無い	・1人暮らしを続けていきたいから心配しないでほしい。
Dさん	・友人が日帰り温泉や食事についていってくれることが楽しみ。	・何か決めなければならないことがある時、自分1人で考えて決めることができない。誰かに決めてもらいたい。	
Eさん	・出かける所があるのはうれしい。カフェに行きたくない時もあるけど、行けば気持ちが元気になる。	・知っている人と、ゆっくり話できる所がもっとあるといい。	・自分でもどうしてこんなになったか分からない。認知症にならないように色々やっていたけど。
Fさん	・デイサービスへ行って皆とお喋りするのが楽しい。 ・週に1回息子が買い物に連れて行ってくれたり、夫に会いに連れて行ってくれる…それが楽しみ。	・「友達も周りにいなくなった...昔が懐かしい...昔の様に仲間と行ったり来たりできたら良いなあー。」	
Gさん	・入院するとお菓子が食べられないので、元気にお家にいたい。 ・体が丈夫なうちは家事を続けたい。	・家の近くにバス停があるといい。 ・気軽に買い物へ行ける手段があるといい。 ・移動販売などが増えるといい。 ・ゴミステーション近くの用水路に柵があると安心。（落ちそうで不安がある）	・特になし

	趣味や好きなこと、楽しみにしていること、続けたいことを、やってみたいこと	あったらよいと思うこと、〇〇に期待すること	その他（みんなに伝えたいこと、わかって欲しいことなど）
Hさん	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩。前は護摩堂山に登っていたけれども、今は歩くのに杖が必要だし年だから近所を歩こうと思っている。足が丈夫でないといけないと思う。 ・読書、ためになることが書いてあるから（昔自分で購入した健康に関する本）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今はいいけれども冬になると歩けなくなる。雪が降っても歩けるように歩道の除雪をしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・薬に頼らないで元気でいたい。 ・普段から体を動かすことが大事だと思う。
Iさん	<ul style="list-style-type: none"> ・家の周りを散歩したい。近所を歩きたい。簡単な畑仕事をして収穫の楽しみを味わい合い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒に歩いて散歩してくれる人がいるとよい。同年代の人と畑仕事や花を育てたりできる場所があるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・忘れ物があっても自分でできる事があるので見守ってほしい。
Jさん	<ul style="list-style-type: none"> ・デイサービスへ行くことが楽しみ。 ・地域の散歩。 ・毎日の晩酌。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家で過ごしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・たまに忘れる事もあるが、地域もよくしてくれて困っていることはない。
Kさん	<ul style="list-style-type: none"> ・もも農家を継続していてできる限り続けたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルパーさんの買い物が1か所だけで近いとこだけだと言われて不便。 	<ul style="list-style-type: none"> ・娘は統合失調症だが、自分たちでみてあげられるし、食事を作ってあげたり、張り合いがある。だからこれからも家で一緒に暮らしたい。

2：ご家族（ケアマネージャー等により聞き取り）

	介護の場面で良いと思うこと、不安に思うこと	あったらよいと思うこと、〇〇に期待すること（要望・希望）	その他（みんなに伝えたいこと、わかって欲しいことなど）
aさん	<ul style="list-style-type: none"> その日や時間によって普通の時もあるし、会話が上手くいかない（怒りっぽかったり）時もあるので、対応に悩む。友人のこともわかったりわからなかったりする。すぐ前のことを忘れてしまうため、興味のある話に変えると怒ったことを忘れてくれることもある。 	<ul style="list-style-type: none"> 思いつかない。 	<ul style="list-style-type: none"> 他者からは普通に見えるため「しっかりしているね」と言われてしまう。いつもはそうではないことをわかってほしい。
bさん	<ul style="list-style-type: none"> ひとりで散歩に出てしまい、戻れる時もあるが、戻れなくなり、探しに行くことがある。また、家にひとり残していくと、訪問販売（シロアリ駆除等）に同意してしまうことがある。契約はできないと思うが、心配。 	<ul style="list-style-type: none"> 今までも、ひとりで出かけた際、近所の方から「あそこで見かけた」等と教えてもらえることがあったが、地域社会のなかで見守るシステムがあるとよいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 他者は、本人に「1度言えばわかる」と思うようだが、すぐに忘れてしまうことをわかってほしい。認知症のことを理解してほしいし、その理解が多くの方に浸透するとよいと思う。
cさん	<ul style="list-style-type: none"> 母の体が動けなくなったらと考えると不安になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 母の年金で収まる特養施設が沢山あると良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 特にない
dさん	<ul style="list-style-type: none"> 訪問看護、ケアマネに何でも相談ができることが良い。 夫婦二人暮らし（私・妻）で介護をする方が傾いたら夫をどうしたらよいか不安。 	<ul style="list-style-type: none"> 急をお願いしても入れる施設があるとよい。 介護者が集い、息抜きができる場所があるとよい。 	
eさん	<ul style="list-style-type: none"> 同じことを何回も聞かれるので嫌になることがある。 自分がこうして欲しいと言っても素直に聞いてもらえず手を挙げてしまいそうになる。 話をして相談にのってもらえ、自分一人で抱えずに 	<ul style="list-style-type: none"> たまたま自営業で、日中も面倒を見ることが出来ているけれど、仕事が忙しいと困る。 大変な時は、母の面倒を見てほしい（ショートステイを利用） 治ったらいいのに… 	
fさん	<ul style="list-style-type: none"> 別居なので毎日電話して内服の確認等をしてはいますが、実際できていないこともあるので、生活全体の把握が難しく不安に思う。 防災タブレットなど新しい電子機器は認知症の本人たちには扱いが難しく情報収集できないためにいざというときに不安に思う。 	<ul style="list-style-type: none"> グループホームや小規模多機能など、認知症の方が利用しやすい施設があるといい。 加茂市内、近辺の介護サービス一覧表があるといい。 急な受診の際に介護タクシーを断られたことがあったので、いつでも使えるようになるといい、又は普通のタクシーでもちょっとした介助をしてもらえると助かる。 自宅でも介護サービス施設でもお願いできる傾聴ボランティアがいるといい。 	<ul style="list-style-type: none"> 特になし

	介護の場面で良いと思うこと、不安に思うこと	あったらよいと思うこと、〇〇に期待すること (要望・希望)	その他（みんなに伝えたいこと、わかって欲しいことなど）
gさん	<ul style="list-style-type: none"> ・私が買い物などで外出に出掛けている間に火事や具合が悪くなっていないかが心配。 ・家に一緒にいるときも何かあっても呼んでももらえないのでずっと気かけなければならない。 ・作ったご飯をたくさん食べてくれて「ありがとね」と返事があると嬉しい、励みになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登山やスキーなど自然が好きな父だったので、近くの加茂山公園に連れていきたいが段差が多くて行けない。せめて噴水の茶屋まで車椅子等で行けるようになったらいいなと思います。 ・車椅子と一緒に散歩ができるよう市内の歩道の整備をしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護をネガティブにとらえたくない。両親のおかげで今の自分があると前向きに考えたい。
hさん	<ul style="list-style-type: none"> ・プライドが高く対応に困ることがある。 ・これ以上進むと仕事をやめないと介護できなくなるのか不安。きっと施設は嫌がるし。 	<ul style="list-style-type: none"> ・悩みを話し合える場所があるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・何でもできる母がこんなになると思わなかった。よく聞いてはいたけど、自分もだし、だれもがなるんだと思う。
iさん	<ul style="list-style-type: none"> ・何でそんなことをするのかわからないという場面はある。後になってからわかることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の関する地域の人の勉強会。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症ばかりのせいでない行動もあるのでよく理由を確かめて欲しい。
jさん	<ul style="list-style-type: none"> ・すぐに忘れてしまう（嫌なことを言われても） ・自分の時間が拘束される。 ・精神的、経済的な不安。 ・泊りのサービス利用で休まる時間があって助かる。 ・感謝されたとき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設に入れて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ話を繰り返したり時には暴言を吐く…たまにしか来ないのに鵜呑みにしないで欲しい。
kさん	<p><良いこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段は言わない感謝の言葉を聞いた。 <p><不安に思う事></p> <ul style="list-style-type: none"> ・この先の生活そのものが不安。 <p>自分の時間がなくなると辛い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスを利用して認知症の進行が遅くなって欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お客様に、以前と変わった姿は病気のせいだと理解して欲しい。

2：家族が認知症であることをまわりにつたえていますか？

- ・何か失礼なことをしてしまうといけないので、親しい人には伝えている。（多数）
- ・話しをして分かってくれる友人（同世代）には話している。愚痴を聞いてもらう。そんなやたらに伝えられない。
- ・お隣の方と区長さんには伝えている。（役員を飛ばしてもらうためにお伝えした）
- ・伝えている。父と2人暮らしなので周囲の協力が必要だと思っている。皆さんに声をかけてもらえる。
- ・近所に1人で外に出ていると近所の方が本人に声をかけてくれたり、家まで連れてきてくれたり、家族にこんなことがあったと教えてくれたりするので、教えてくれたりするので、近所の方には説明をして頼みであるので安心だ。

認知症条例関係ヒアリングシート 【企業】

	業務の中で認知症の方と接する場面	心かけていること	取り組みそうなこと
小売店	<ul style="list-style-type: none"> ・近所で認知症の方を家族が叱責している声が聞こえる。ドキドキする。 ・酒屋に灯油を買いに来た高齢者がいた。 ・当事者家族に認知症のセミナーを勧めたら怒られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・困ったときは長寿あんしん課へ連絡している。 ・認知症とわかれば、いろいろと工夫して対応している。 ・介護保険サービスなど知ってことはお知らせしている。 ・店にロバを置き、PRしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・困っている方へ相談窓口を伝えたり、実際に連絡する。 ・簡単なチェックリストやパンフレットを店に置き周知啓発に協力できる。 ・ロバを店頭に置き「認知症サポーター」であることを周知する。
交通	<ul style="list-style-type: none"> ・電話注文の際、住所、名前が分からなくなる。 ・予約の日時を間違えたり、忘れたりする。 ・予約をしたことを忘れて何度も繰り返し電話する。 ・行き先に家がない（あとで子供の頃住んでいた場所ということがわかる）のに何度も行こうとする。 ・自宅が分からなくなる。（帰りだけのご利用でこちらも分からない方でした） ・会員カードを何度もなくす。 ・財布、買い物したものがなくなると度々言う。（カバンの中にあったり、玄関にあたりする） 	<ul style="list-style-type: none"> ・あせらせないようにゆっくり話す。 ・丁寧に繰り返し確認する。 ・ご家族がいる場合は連絡をとり状況を話して福祉事務所に相談してみてもは、と伝える。 ・ご本人がわからない場合は、車をとめてゆっくり話して聞き出す。また、住所が書いたものがあるか探してもらう。 ・前回、みつかった場所をもう一度探してもらうようお願いする。 ・おつりを返す時や、荷物を運んだりする時は、しっかり声掛けをする。 ・忘れ物はないか声掛けをし、目でも確認する。 ・ドライバーと配車係りとで情報共有をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症関連のパンフレットを受付においたり、ポスター等の掲示。 ・各所への連絡、情報提供。 (※今までは、こちらで考えていた方がいいかな、と思うことをしていましたが、逆にご要望いただければできることもあると思います。)

	業務の中で認知症の方と接する場面	心にかけていること	取り組みそうなこと
窓口業務 (金融機関)	<ul style="list-style-type: none"> ・同一のお客様で窓口にて繰り返し、通帳等の紛失の届出がありました。 ・通帳等の再発行の手続きをご案内しましたが、数日後にはその事を忘れられて再度お問い合わせをいただくことがありました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な手続きについて、案内（メモ等）を作成しお渡ししています。 ・店頭にロバを置き「認知症サポーター」であることを周知しています。※7名の職員の内、6名が認知症サポーター資格取得済みです。 ・ローカウンターにご案内する等、お客様が安心してご相談いただけるよう心がけています。 ・担当者は、随時、管理職に報告し、管理職と相談の上対応しています。 ・お客様の状況に合わせて、代理人手続きのご案内（社会福祉協議会の日常生活自立支援事業、成年後見人制度含む）をさせていただいています。 ・ご本人様の了解をいただいた上で、必要に応じてお客様のご家族に連絡をとったり、自治体、警察との連携をとるようにしています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後さらに自治体との連携強化を図り、スムーズな対応を行う。 ・「認知症サポーター講座」等を受講し更に知識を増やす。
	<ul style="list-style-type: none"> ・通帳を複数回再発行（無くしてしまうとのこと） ・家族が認知症で、本人が手続きできないと相談される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族の気持ちに寄り添い、郵便局でできる解決策をご案内する。 ・ご本人が来店された場合は、後で確認できるよう紙等に記入してお渡しする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーターであることを周知。（ロバをお客様の目の前につく場所に置く）
運送業	<ul style="list-style-type: none"> ・配達途中で認知症の方と出会い迷子になっている。（自宅がどこかわからなくなっている） 	<ul style="list-style-type: none"> ・優しく声をかけ、話を聞いてあげる。 ・必要なところへ連絡をしてあげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成講座に受講者を増やし、困っている方を見つけたら対応する。

認知症条例 ヒアリングシート

	認知症の方やご家族への対応で心掛けていること	取り組みそうなこと	その他（必要なこと、あったらよい、思っていることなど）
居宅介護 支援事業所	<ul style="list-style-type: none"> ご家族様は、介護の大変さを周囲が理解してくれないことに対し、大きなストレスを抱えているため、時間がかかっても、できるだけお話を傾聴するようにしています。また、本人様、ご家族様に対し失礼にならないよう、言葉づかいや言葉の掛け方に注意を払っています。 	<ul style="list-style-type: none"> 本人がひとりで出かけても安心できるよう、地域ぐるみで本人様の情報を共有し、見守ることができればよいと思います。ただ、本人・家族が他者に知られたくない思いもあるので、それを本人、家族、住民ともに当たり前に受け入れられるような考え方の定着も必要で、なかなか難しいのかもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> “家族の会”とか、若年性の方やADLのよい方が利用できるDSやSSとか、趣味や好きなことが行え、活動的に過ごせる場所があるとよいと思います。
	<ul style="list-style-type: none"> ご本人とは笑顔で目線を合わせて、苗字で呼びかけて、ゆっくりと敬語でお話をしています。否定せず、どんなお話も傾聴するようにしています。 ご家族には別室や電話等で周辺症状のお困りごとを確認するよう配慮しています。お話を伺いながら認知症への理解ができるよう説明し、受診や介護サービスの利用を勧めています。 	<ul style="list-style-type: none"> かもんカフェやケアラズカフェ、認知症サポーター養成講座の参加呼びかけ、お手伝い。 	<ul style="list-style-type: none"> 徘徊感知機器の貸し出し 認知症見守りシール（QRコードを読み込むことで認知症の方を発見できる）の配布、認知症の方向への個人賠償責任補償に自治体経由で加入できる制度 注文を間違える料理店（雇用先）
	<ul style="list-style-type: none"> 言葉遣い。 時には方言も必要。 名字で呼ぶ。 顔をみてお話をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 顔をみてお話しする。 	<ul style="list-style-type: none"> よく話を聞くこと。
	<p>認知症の方への対応で心掛けていることとしては何かを説明する際に短く分かりやすい表現で話そうと心掛けている。また、表情に着目しながら接している。ご家族へは日々、介護して大変なことを聞き出し共感、受容、肯定しながら接するようにしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域において広く認知症に対する理解を深められるような場を増やす。そのためのネットワークを複数つくっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 小規模多機能型居宅介護施設等が市内に複数あると良い。
	<ul style="list-style-type: none"> その方に合わせて、ゆっくりとわかりやすい言葉で伝えたり、お相手のお話はゆっくりと傾聴するように心掛けている。目線を合わせたり、手や背中をさすったり、言葉のみのコミュニケーションでなく、お相手に安心して頂けるように接している。 ご家族様へは、認知症の方の対応を頑張っておられることを労り、頑張りすぎないようにお伝えしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 介護保険サービスのご紹介や、ご家族様へはオレンジカフェなどの介護者の方の集いのご紹介。 ご本人やご家族へ、地域の方との関りの聞き取り。必要であれば、民生委員の方と情報共有したり、見守りの協力依頼を行う等。 	<ul style="list-style-type: none"> 傾聴ボランティア 自宅内のちょっとしたお手伝いなどのボランティア 一緒に散歩したりできるボランティア

	認知症の方やご家族への対応で心掛けていること	取り組みそうなこと	その他（必要なこと、あったらよい、思っていることなど）
介護施設 (通所)	<ul style="list-style-type: none"> 家庭にあるが如くを信条として心掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 左記に示したように努めたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 加茂病院の更なる協力。 介護の担い手を増強する国の政策を強く望む。
	<ul style="list-style-type: none"> 認知症の方が安心できる言葉掛けや、対応を行っている。 レクリエーションへの参加や他者と交流できる環境を作り、認知機能の低下を防ぐ。 		
	<ul style="list-style-type: none"> 疾患をみるのではなくその人としてみる。 ご本人、ご家族など関わる方々の考えや思いに歩みよること。 	<ul style="list-style-type: none"> 各々事業所の業務内容に加えて、何かを負わせる為新たな加算が必要なので市として予算規模を決めていただきたい。 色々取り組みを提示していただき事業として行えるものがあれば検討いたします。 	<ul style="list-style-type: none"> 人員に確保、労務の影響など、どの程度であれば協力可能なか不安です。
	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活を維持継続出来るように慣れた環境の中で何をお手伝い出来るのか、目的を明確にして不安や心配が解消出来たらと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> サービス利用を通しての様子や状態に関わる人達で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報の共有の場、相談しやすい場。
	<ul style="list-style-type: none"> わかりやす言葉で説明するようにしている。 孤立しないよう、こまめに声がけをしている。 施設での様子等を送迎等の訪問の際に伝えるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> レベルに合わせた運動や脳トレの提供。 少人数制を活かした親身な対応。 	<ul style="list-style-type: none"> 他者との関わり。 気軽に交流ができる場所。
介護施設 (短期入所)	<ul style="list-style-type: none"> 認知症になっても住み慣れた環境、自宅での生活が続けられるように家族の方へのケアサポートをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> デイサービスやショートステイのすすめ。 気軽に立ち寄ってもらえる場所の提供。 	<ul style="list-style-type: none"> 男性の方が通いやすいサービス、仕事延長のサービス提供がデイサービスなどでできると良い。

	認知症の方やご家族への対応で心掛けていること	取り組みそうなこと	その他（必要なこと、あったらよい、思っていることなど）
介護施設 (入所)	<ul style="list-style-type: none"> ・入所者様が安心、安全に過ごすためによりよいケアの方法を検討し対応するようにしている。 ・ご家族様へは、なるべく負担をかけないようにすることと、不安なときには話を聞きながら少しでもここでもよかったと思ってもらえるように対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入所者様個々の状態を把握し、生活上の問題点を解決できるように取り組んでいく。 ・認知症やその他についてしっかりと知識を深め、入所者様ご家族様がともに安心して生活できる支援をしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員のスキルをあげるための研修の場がもう少しあるといいのではないかと思います。 ・研修を通して他の事業所の方とも話をする事でお互いの考えを共有したり時に連携していけるのではないかと思います。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人、ご家族様ともまずは話の訴えを聞くこと、共感や自身の態度や表情にも気をつけています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オレンジカフェは実施していますが、ケアラズカフェなども希望者がいれば検討できるかと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話の普及により日夜問わず親戚や知人などに電話し問題になるケースを最近よく耳にします。どの様にアドバイスしていいのか悩みます。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人に対しては、否定せず話を聞く。 ・混乱しないよう職員は同じ対応をする。 ・認知症は脳の病気であることは十分に理解し、ご家族にもわかりやすく説明している。 ・時間をかけ、本人、家族へ対応している。一度で対応できない時は、回数を増やし話している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は、研修等一人ひとりが認知症の理解を深める。 ・施設研修でも、認知症の理解を深める内容で定期的を実施する。 ・家族への研修会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・穏やかな認知の方は、前に書いたようなことで対応して行けると思うが、暴力的になる方や性的な症状が強く出る方は専門病院との連携がすみやかにできることを望む。病院の大丈夫は、施設の大丈夫とは温度差があるように思える。
	(認知症の方に対して) <ul style="list-style-type: none"> ・その方の認知症の程度によりますが、認知症の方の尊厳を傷つけない様にするために認知症で無い方と同じ対応を心掛けています。その中で、認知症の方が困っていると考えられる事柄に対して、どのようにしたら解決できるかを考えて介護を行うように心掛けています。特に重度の認知症の方と接する際は、笑顔で対応しあなたに害を与える人物ではありませんと表現し接するようにしています。また、認知症の方が安心して施設で生活できるようにするには何が必要かを考えています。 (ご家族に対して) <ul style="list-style-type: none"> ・ご家族の方に対しては、認知症の方に対する正しい対応方法のアドバイスや、対応方法がわからずに困っていて介護のストレスが溜まっているようなら、ケア 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の方の困りごとを見つけ、施設内の各職種で対応策を考え、多職種協働にて実施する。 ・施設職員に対し認知症に関する研修の参加を促し、最新の認知症ケアを学んで貰い施設にフィードバックして貰う。 ・認知症の方とそのご家族から、これまでの生活歴や病歴、趣味、特技など様々な情報を聴き取り、その方が安心して、その方らしく過ごせる環境を可能な範囲で提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当施設が4人部屋がメインの特養であったり、入所者の共有スペースが狭かったりし、認知症の方が安心して過ごせる環境づくりに苦勞をしているので、個室が多くあったり広い共有スペースがあったりすると静かな環境を望む方にとって良い環境を提供出来るのではないかと思います。 ・身寄りのない人にスムーズに対応する体制。 ・感染症対策にて現在対応は難しいが、認知症の方に対する傾聴ボランティアや、散歩等の見守りボランティアさんがいたら、施設で受け入れて認知症高齢者の生活の質の向上に繋げたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・不安や困っている事、希望の事などの事を傾聴し、不安な気持ちに寄り添う事に心がけています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・傾聴、受容を大事にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス内容を詳しく知らせる事。

訪問介護
事業所

	認知症の方やご家族への対応で心掛けていること	取り組みそうなこと	その他（必要なこと、あったらよい、思っていることなど）
	<ul style="list-style-type: none"> ・任されたサービス内容以外でも、その方にとって必要なサポートがまだあるのではという認識で業務に入っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設と在宅という両極端な枠組ではサポートしきれない現状ですので、その間を補う新たなサービスの展開が必要。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の尊厳を尊重し対応している。 ・話し方や声かけを工夫し、不安や不快感を与えないよう心がけている。 ・ご家族には、困っていることや今不安に思っている事がないか傾聴するよう心がけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・両者の話を傾聴することで、必要に応じ多職種との情報共有、連携を図りサービスの追加等を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オレンジカフェはとても良いと思います。今後は、1か所のみでの開催だけではなく地区ごとの開催で行きやすい場所で参加できる様になるとご家族の不安も減るのではないかと思います。
	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な症状のなかで本人は不安感、焦燥感にさいなまれプライドが傷つき自信を失っていると思われる。その人の思いや気持ちを大切に介護を行うことが求められている。 ・介護者を孤立させないことが重要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護者が相談できる人と場所を持っていることが大切と考えます。我々専門職がそのような方々の相談支援にあたるなど、介護者の精神的な介護負担の軽減をはかれる機会があると良いのでは？ ・「家族会」や「認知症カフェ」などの支援グループの拡大等。 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護、医療、行政等がチームとなり円滑にサービス利用ができる組織作りの構築。 ・専門職だけでなく、場合によっては第三者（学生さんやご近所さん等）の意見を取り入れるなどもっと柔軟な話し合いの場があると良い。
	<ul style="list-style-type: none"> ・信頼関係を築く。 ・不安やストレスをかけない。 ・良い感情を残す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の早期発見 ・認知症に方への配慮や対応方法等々アドバイス。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気軽に相談できる人。 ・相談に行ける場所。 ・認知症予防プログラム。
	<ul style="list-style-type: none"> ・共感する。 ・笑顔。ゆっくり話す。 ・せかさない。 ・良い印象を残す。 ・よく話しを聞く。 		<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な認知機能チェックを実施し、早期発見。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人の生い立ち、生活リズム、得意なことを聞き取る。 ・介護者の大変さを受け取る。認知症についての理解が深まるようお伝えしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアプランに反映させる。 ・サービス事業所に求める。 ・認知症高齢者を抱える家族の会勉強会や交流会を開催。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症があったとしても特別な人ではないという事、普通に対応しています。ただ、ご家族のご苦労や悩みも理解しつつ、どの様に支援をしたらご本人、ご家族が不安なく幸せに生活できるかを念頭に入れて対応しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族へは、認知症についての理解をして頂ける様に認知症について伝えます。（啓発活動、勉強会など） 	<ul style="list-style-type: none"> 認知症状の発症リスクのありそうなお一人暮らしの方などへの訪問活動。

	認知症の方やご家族への対応で心掛けていること	取り組みそうなこと	その他（必要なこと、あつちらよい、思っていることなど）
訪問看護	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の方へは、その人らしさを大切に「できなくなることに注目するのではなく、「今できること」にも目を向け生きがい、居場所作りを心がけています。 ・ご家族には、労のねぎらい、ストレスの発散ができることを心がけ、その上で認知症症状の対応方法を一緒に考えるようにしています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症当事者、家族双方を孤立させることなく、その声に常に耳を傾けること。 ・必要な支援者と連絡・連携し、相談・支援できる体制づくり。 ・集いの場の提供。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な気軽に相談できる環境・場所。（ファーストタッチの拡大） ・当事者が集える場所。（介護保険サービス外） ・市、全体での講演会など。
	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは受け入れる。 ・焦らずに関係を築いていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の方やご家族の思いを発信。（または発信の支援） 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会との関わりを持つ。 ・孤独にならないような取り組み

	認知症の方やご家族への対応で心掛けていること	取り組みそうなこと	その他（必要なこと、あったらよい、思っていることなど）
調剤薬局	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族の方が薬をもらいに来ることが多いので、できるだけ今かかえている悩みなどご家族の話を聞いてあげるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物治療で、認知症の進行を遅らせる。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・本人に対して絶対に怒らない、責めない ・同じ話でも何度も聞いてあげる ・本人だけでなく、家族も含めて生活で困っている事がないか、今後どのような生活をして生きたいか ・薬の管理・服薬がきちんと出来ているか ・家族の方に声がけし、相談しやすいようにする ・本人来局時に、服装や持ち物など困っていないか様子を見る 	<ul style="list-style-type: none"> ・服薬管理（お薬カレンダー）の提案 ・支援相談窓口の紹介（家族の心の余裕） ・勉強会、研修会の参画 ・認知症の知識について啓発 ・多職種と家族による生活支援・情報交換会（認知症カフェへの参画） ・認知症についての知識、介護者の体験談などが載っているチラシ（冊子）の作成 ・在宅における薬の管理、配達 	<ul style="list-style-type: none"> ・いきなり認知症を疑って受診するのに抵抗がある方への簡易相談 ・一人暮らしの方が今後どのような生活を望むのか ・老老介護者へのサポート ・手帳を忘れてもマイナンバーカードがあれば検査内容も含めて把握しやすいが、本人への確認や同意取得が難しい
	<ul style="list-style-type: none"> ・話をよく聞く ・伝えたい事をメモとして残す 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談すべき窓口へ繋ぐ ・お薬をのみ易くする工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症患者のご家族は介護や日頃の対応などで疲れている方が多いように感じるので、家族のケアができるようなサービスがより充実するとよいです。（相談や語りの場）
	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の方：何気なくこちらから声をかける（話題は何でも良いと思う）ゆっくり話す。 ・ご家族：共感し話をよく聞いてあげている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人の「動き」などを注意して見守り、話があったらよく聞いてあげる。 ・家族の方から相談しやすい雰囲気をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気軽に相談できる窓口をいくつか開設しているといいと思う。
	<ul style="list-style-type: none"> ・御来局いただいた中ご本人が投薬口までこられた場合はご本人に向かって話を伺うようにしています。 ・薬の使い方や変更があった場合は付き添いの方中心に説明しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・御来局いただいた際にはご本人やご家族に気持ちの負担をかけない程度に見守ることができればよいとおもいます。 	<ul style="list-style-type: none"> 「認知症の方の生活サポートについての相談窓口」が分りかねるのでそれを周知できるツール（ポスターとかチラシとか）があればよいと思います。
	<p>（本人）</p> <p>服薬指導時に飲み忘れなどの確認や飲み忘れに対する指導の際に大きな声で話さない。何度も同じ事を話されるので対応は毎回同じ対応をする。その都度理解してもらおうように説明する。</p> <p>（家族）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常に声掛けをしている。ご本人の状態や現在のサービスの回数等。ご家族の苦勞などをお聞きする。愚痴 	<ul style="list-style-type: none"> ・薬を間違いなく服用するために、ご自宅に訪問し薬の整理や、その方にあった管理方法を検討する。 ・飲み忘れのないように用法の変更や飲みにくい剤形があれば医師に提案する。 ・薬の効果を忘れないように薬袋に大きな文字で記載する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症が進行してから薬剤師がご自宅に訪問し管理方法を提案しても対応出来ないケースがあるため、早い段階から管理方法を一緒に考えていく事が大事だと思います。 ・現在、独居の方のご自宅にタブレットを提供していますが、このタブレットを使用し、遠方のご家族、多職種と連携がとれるようになって来ると良い。 ・連携ノートに家族がご本人の様子を書いて多職種

	を聞く。		と連携がとれるようにする。
	認知症の方やご家族への対応で心掛けていること	取り組みそうなこと	その他（必要なこと、あったらよい、思っていることなど）
調剤薬局	・薬をしっかりと飲めているか、困っていることがないかできるだけ時間をかけ聞くようにしてる。	・薬についてなど、医療として医師と、介護施設や本人、介護者との間に入り連携に努める	・多職種連携、ネットワークの構築。
	・薬の飲み忘れや紛失が増えた時に一包化(薬を服用時点毎にパックすること)を提案している。	・残薬の調節	・一包化は料金がかかるため、提案しても家族の方が断ることが多い。必要な場合は介護スタッフからも家族に声掛けして欲しい。
警察署	・警察の対応として、高齢者虐待事案、徘徊事案に伴い接することが多いが、虐待＝養護者は加害者となりうる為、事件性の有無を踏まえた対応に心掛けている。	・新たな認知症高齢者を把握した際は、関係機関への情報提供。 ・徘徊した際は、ネットワークを利用した官民協力の発見活動。	
消防署	・救急出動に際しては、家族関係者等から詳しく日常生活状況を聴取し、その情報に配慮したうえで医療機関選定等を行っている。	・＜救急隊引継ぎ票＞の配布と事前記載依頼およびその取扱い指導。 ・在宅医療、在宅介護との連携強化。	DXへ進めることは理想だが、現状はアナログによる情報提供、情報交換が効率的と考える。 ※インフラが充分整わないと救急現場では活かせない。運用消防本部からの情報。
	・認知症ご本人の方が119番を電話し、救急要請時には話方に気をつけて接し、スムーズに救急車を向かわせる。	認知症の方を理解しその方に寄り添いながら聴取を進め住所、氏名を確実に聞き出す。	

認知症の方が尊厳を保ちながら幸せに暮らしていける地域の実現に必要なと思うことは、どのようなことか？

(ヒアリング等で自由記載)

- 自治体が策定している**福祉ネットワークの制度をマニュアル化し、広く地域の各種事業者**に周知していただくことで、速やかな対応が可能になると思っています。特に、**窓口となる部署名や連絡先**を周知していただくことが必要かと思えます。(ネットワークを見える化 相談窓口の周知)
- 近年に見受けられる**地域の繋がりの希薄化を止めること**。(地域のつながり)
- 国が現実の介護現場を早くに知るべき**と思われる。(現場を知る)
- 認知症のある方への**基本的対応方法のパンフレット**を各世帯へ配布。(パンフレットなどで認知症に関して啓発普及)
- 認知症のある方とその家族、地域で協力していただける方の**カフェ開設**。認知症初期に、今後の生活について考える会。(認知症カフェ等)
- 加茂病院へ認知症のある方が病気になった時の受け入れ整備**のお願い。(医療と介護の連携)
- 多職種の連携はもちろんですが、**個々に合った生活の場を提供していくことが必要**だと考えます。
- 医療や介護などの制度だけでなく、**地域住民による見守り**が大切であると思う。(地域の見守り)
- 地域住民の認知症の理解度を上げる**。(認知症全体の啓発普及)
(身近に認知症の方がいない人にも認知症について考えてもらう機会を増やす必要がある)
- 「尊厳を保つ」、「幸せに暮らせること」、「地域」の定義を統一すること。(言葉の共有)
- 機関の選定条件や加算の算定要件を定めること。
- 地域と家族、支援者を繋ぐ**イベント**。(福祉フェア等の開催→地域のつながり)
- 活動(仕事)ができる場所**が地域にある。(就労)
- もう少し**サービス、相談等が気軽に利用できる環境づくり**。(体制強化)
- 今ある資源が、有機的に繋がり、継続的に支える体制を築くこと。また、**認知症の方も一緒に**。(社会参加できるまちづくり)
- 自分が認知症になっても安心して暮らせる街はどんな街?**と考えること。(自分事)
- 事業所によりできることが異なると思いますのでご協力していければと思います。
- BPSDがあると、周囲の方から「困った人」というレッテルを貼られてしまいがちです。又、周囲の方もどの様に対応しているのか分からず地域で尊厳のある暮らしができないのではないのでしょうか。**周囲の方がどう対応すべきかアドバイスしてもらえ**る機会があればいいです。(尊厳 関わり方の知識啓発普及)
- 市内の**小中学校の児童及び生徒に認知症の方に対する理解が深まる**ような教育体制をつくる。(教育機関との連携)
- 認知症を発症する前、その方が地域住民、近所の方々との付き合い方等で、発症後の地域の方や隣近所の方々の対応が変わって**くる。地域全体で、認知症に対しての理解力や感心を持ってもらえる様な対策が必要だと考える。(日頃からの地域との関わり)
- 昨今、核家族化が進み、小さな子の中には「おじいちゃん、おばあちゃん」と接する機会が全くないケースも増えている。共働きなどにより、昔のようなご近所づき合いもなくお年寄りの孤立化は拍車を増し、認知症発症の原因の1つでもあるように考える。**「地域密着型」老人ホーム(例えば保育園など併設し、交流の場をもつなど)**とか子供の頃からお年寄りと接する場があると良いと思います。※**人と人とのつながりが希薄**となっている。(地域密着 異世代交流)
- 認知症について「困った人」「何もわからない人」ではなく、**1番困っているのは本人であること**の理解を深めること。(当事者目線)
- 認知症の方とその家族が**地域住民やインフォーマルな支援を行ってくれる団体等と交流**が出来る場をつくる。(インフォーマルサ)
- 長寿あんしん課と介護事業者と医療関係の連携を深め、協働し認知症の方とその家族の困りごとに対応する関係性を築く**。(行政と介護事業所との連携)
- 認知症は**予防できない**というが、**良いと言われることは積極的にや**っていく。(予防・備え)

- 認知症の方の**判断能力に配慮した成年後見制度の推進を可能にする組織づくり**を行う。（権利擁護）
- 地域包括支援センターに認知症に対する相談窓口を設置して市民に周知し、認知症の早期発見に努め、必要であれば早期受診に繋げ、適切な医療の提供が出来る様な体制づくりをする。
- 認知症の方が安心して利用出来る介護施設（グループホーム等）が加茂市に設立出来るように、加茂市が補助制度等を策定する。**（財政支援）
- 認知症の方にかける”手”が多いほど良いと思いますが、人員、費用、などを考えると実現は難しいと感じます。**周りの人が当事者を無視しない**ことが始めなのかなと思います。
- 市内の介護事業所の人員不足を解消するために、**介護人材採用時にかかる費用の一部負担助成を加茂市が行い、市内の介護事業所のマンパワーアップ**をはかり、**認知症の方が必要な際に介護保険サービスがスムーズに利用出来るようにする。**（財政支援→マンパワーの確保）
- 一人暮らしの認知症の方は、家にこもりがちになる事もあるため、**地域の皆さんでフォローする。又はコミュニティへの参加を呼びかける。**（地域のフォロー）
- 行政の方や地域のボランティアの方が定期的に訪問又は声かけをし一人にしない。**薬剤師も見守りを兼ねてご自宅に訪問します。（地域のフォロー）
- 認知症は**早期発見と早期治療**が大切ですので、**普段近くに住む地域の皆様方にも協力**してもらう必要があります。（地域のフォロー）
- タブレットを活用し、**運動不足の改善のためにラジオ体操**を流す。（予防）
- ゴミ出しの声かけ、冷蔵庫に腐った食材が入っていないか、冷暖房を適切に使っているかなど…介護サービス利用にまで至らないことを**顔馴染みの方々が見守り、声かけ**をして下さる。（ちょっとしたボランティア 地域のフォロー）
- 行方不明の認知症の方を見かけた際や話し掛けられたが家の連絡先が分からず、どう対応して良いか困った時などに、**どこに連絡・相談すればよいか迷う**ことが多い。案内窓口の設置や、既にあればその連絡先をポスターや市民への案内などで分かりやすく周知してもらえると助かる。（相談窓口の啓発周知）
- いつでも相談に乗ってもらったり、私の代わりに物事を決めてくれる人がいるといい。難しいことは家族に話してほしい。（意思決定）
- （事故・急病など）**事前に備えるべき情報の整理、提供体制。**（備え）
- 「自分は何も変わってない。」**特別な存在だと思ってもらう必要がない。**
- 認知症にならないことが一番だと思う...でも**認知症になることもあるんだから仕方ない。**
- 自分の話を聞いてもらいたい。（傾聴）
- 地域の方の理解があり、認知症だからというわけではなく、なにか困っているときに気軽に声をかけてもらえる環境があると良いと思う。お店では、認知症に限らず困った方に対応してくれる方がわかりやすくいと頼みやすく、認知症の方のみでも外出しやすくなるのではないかと思います。（お店の方がオレンジリングをつけている等）（地域のフォロー）
- 民生委員の方が高齢者世帯の方に行っている訪問やお弁当配布など、ご家族と同居の認知症の方のところにも同じように関わっていくと、ご本人やご家族の意識も変わるのではないかと思います。**地域から孤立しないように民生委員の方と定期的に関わっていく**ことも良いのではないかと思います。（民生委員への期待 地域のフォロー）
- 認知症の方が**気軽に買い物や外出できる手段**があり、周りの方の理解があり**気軽に手を貸してもらえると**いいと思う。（交通手段の確保）
- ご近所の方の理解があるといいと思う。（関りがあるない関係なしに全員）なにか**異変に気づいたときに動いて頂けると助かる。**（地域の見守り）
- 近所の商店さんとの**信頼関係ができ遠くの親戚より近くの他人**といった助け合える地域が実現することで認知症の方も自分らしく暮らせるのではないかと考えております。
- 介護者が気分転換できる場所**（けれども他の人の愚痴は聞きたくない）（介護者の負担の軽減）
- 同居の家族が自分の**家族の認知症に早く気が付ける知識の普及**（周囲が先に気付くことが多い）（普及啓発）
- 自分の若い時の**経験を生かし、一緒に作業**できる様な場所があるとよいと思う。（当事者の経験を生かす集いの場）
- 物忘れがあっても**すぐに危険だからやめれとか言われるが見守って欲しい**時もある。一緒に見守ってほしい。（意思決定 見守り）

加茂市内企業アンケート

【加茂市内の企業100社へFAXにて調査施行】

1	従業員数	10人以下	11～20	21～42	43～100	101以上	49 (企業数)
		17	12	10	6	4	
2	65歳～69歳の雇用あり	10	11	9	5	4	39
	65歳～69歳の雇用以前あった	3	1	0	1	0	5
	希望あれば検討しても良い	1	0	0	0	0	1
	考えていない	3	0	1	0	0	4
3	70歳以上の雇用あり	6	5	6	4	2	23
	70歳以上の雇用以前あった	2	2	1	0	1	6
	希望あれば検討しても良い	3	4	2	1	1	11
	考えていない	6	1	1	1	0	9
4	若年性認知症知っている	11	8	6	3	2	30
	聞いたことはある	6	4	4	3	2	19
	分からない	0	0	0	0	0	0
5	認知症の相談窓口利用したことある	1	0	2	0	1	4
	知っているが利用なし	4	3	2	0	0	9
	分からない	12	9	6	6	3	36

- ・ 回答率は約50%であった。
- ・ **65歳～69歳の雇用**について、「今後も検討」を含めて**約9割が実績ありあるいは可能性がある。**
- ・ **70歳以上の雇用**について、「今後も検討」を含めて**約8割が実績ありあるいは可能性がある。**
- ・ 若年性認知症に関しては「聞いたことがある」を含めて**約8割が知っていた。**
- ・ 認知症の相談窓口に関して「わからない」との回答が**約7割あり、その周知啓発が課題**である。

高齢者雇用、障害者雇用についての考え

雇用：101人以上の企業

- ・ 障害者雇用は現在4名、これ以上は現実的には、難しい。
- ・ **高齢者雇用は、熟練工など検討の余地あり。**
- ・ **障害者雇用は、良い人材がいるようであれば積極的に雇用したいと考え、継続的に採用活動**を行っている。
- ・ 高齢者雇用は、定年再雇用により、65歳まで雇用。仕事内容より安全面を考慮し基本的には65歳以上の雇用は行っていない

雇用：43～100人の企業

- ・ **障害者雇用については理解していますが問題もいくつかあるので、解決していきたいと思っています。**
- ・ **高齢者雇用については近年は高齢でも元気な方が増えていますのでどんどん働いて欲しいと思います。**
- ・ 障害者でも、**精神や知的は指導につかないといけないので現実難しい。**
- ・ 全体的に**人材不足はあるので、身体に支障なくその仕事ができるのなら、高齢者雇用は可能。**

雇用：21～42人の企業

- ・ 人材確保が難しいので**20年位前から看護師延長パート、短期間保育士勤務当60歳以上の人をいつも雇用して助かっている。**
- ・ **軽度知的障害者は雇用する方向で検討したい。**

雇用：11～20人の企業

- ・ **積極的にとり入れていきたい。**

雇用：10人以下の企業

- ・ 支障がなければよいと思っています
- ・ 高齢化社会において雇用は必要である。
- ・ 年金だけでは生活できないのでやはり仕事は続けると思う。
- ・ 障害者雇用は難しい仕事内容です。
- ・ 高齢者雇用は、現在勤務している従業員であれば勤務してもらうことは可能と考えています。